

三井住友アセットマネジメント株式会社 企画部
東京都港区愛宕 2-5-1 愛宕グリーンヒルズ MORI タワー 28 階 〒105-6228
Tel. 03-5405-0555 Fax. 03-5405-0666 http://www.smam-jp.com

フィデューシャリー・アクションプランの実施状況および F D 第三者委員会の提言について

三井住友アセットマネジメント株式会社（SMAM：Sumitomo Mitsui Asset Management 代表取締役社長 松下 隆史）は、このたび、フィデューシャリー・デューティー宣言の具体的施策であるフィデューシャリー・アクションプランの実施状況を F D 第三者委員会の提言とあわせ下記のとおりご報告いたします。

SMAM は「運用責任を全うする」べく、フィデューシャリー・デューティー宣言の実践とアクションプランの見直しを継続し、お客さまに最高品質の資産運用サービスをお届けします。

記

1. フィデューシャリー・アクションプランの実施状況

フィデューシャリー・アクションプラン（全 40 項目）は順調に進捗しております。以下では前回報告以降に大きな変化があった項目を中心に分野毎に取組み状況を報告いたします。

～運用～

日本株運用では、企業調査グループ内に「スチュワードシップ推進室」を新設し、スチュワードシップ活動の一層の取組みを推進しています。また、独自の ESG※評価銘柄数を拡大するとともに、ESG レポートの作成も開始しました。

バランス型運用では、債券運用グループとバランスファンド運用グループを統合した「グローバル戦略運用グループ」を新設。自社運用・外部運用を含めた国際分散投資でお客さまの長期資産形成に貢献します。

※Environmental（環境）、Social（社会）、Governance（企業統治）

日本株アクティブ運用を中心に運用人材を大幅に増強中です

実施中

日本版スチュワードシップコードの受け入れを表明し、長期投資のための株式リサーチ体制の強化を順次、進めています

2016 年 10 月に企業調査グループ内に「スチュワードシップ推進室」を新設しました。エンゲージメント方針、議決権等行使方針、SRI※・ESG の調査分析を同室の専管事項として、スチュワードシップ活動の一層の取組みを推進しています。

※Socially Responsible Investment（社会的責任投資）

企業との目的を持った対話活動を進め、エンゲージメント投資を開始しました

実施中

特に、社会の発展に資する S R I、E S G 投資に積極的に取り組みます

新評価体系で当社が独自に行う ESG 評価銘柄数を大幅に増加し、ESG レポートの作成も開始しました。

社会資本形成に資する長期投資の機会を提供するためインフラ投資を拡充します
実施中
アジア株運用の中心拠点を香港に移し、グローバル競争力のある運用体制を構築します
業容拡大に備え 2016 年 10 月末に香港オフィスに移転いたします。
充実した海外ネットワークを活用し、グローバル債券運用を拡充します
実施中
債券運用およびアセットアロケーション体制の抜本的見直しを行います
2016 年 10 月に債券運用グループとバランスファンド運用グループを統合し「グローバル戦略運用グループ」を新設しました。自社運用・外部運用を含めた国際分散投資でグローバルに優れた運用をご提供し、お客さまの長期資産形成に貢献します。
クオンツ（計量的分析）の開発・運用機能を見直し、クオンツ運用を強化します
当社の各種運用組織および子会社である日興グローバルラップ社も含めたクオンツ運用体制について 2017 年 1 月の実施を目指し、抜本的に見直し中です。
自社資金を活用し、新規ファンドの開発を積極的に行います
実施中
トレーディング機能を高度化し、取引執行コストを縮減します
実施中

～商品開発～

<p>投資信託の分配金について、個別ファンドの分配金決定の考え方や分配の仕組みをご説明する資料を作成し、HP に掲載しました。また、基準価額と分配金の関係をご理解頂けるよう、交付運用報告書の記載事項を追加しました。</p> <p>機関投資家さま向けに、日興グローバルラップ社と協働し同社のモデルを活用した商品を開発、設定しました。</p>

商品企画に特化した専門部署を新設し、商品開発基本方針を策定しました
実施済
お客さまニーズにきめ細かく対応するため、商品開発プロセスの見直しを行いました
実施済
お客さまにご納得いただけるよう、「運用報酬に関する基本方針」※を策定し、見直しを行ってまいります
※ 運用報酬設定に関する基本的な考え方をわかりやすく纏めたもの
実施中
お客さまにわかりやすい「分配に関する基本方針」※を策定し、見直しを行ってまいります
※ ファンドの分配に関する基本的な考え方をわかりやすく纏めたもの
<p>2016 年 6 月より、個別ファンドの分配金決定の考え方をわかりやすくお伝えする「決算を迎えたファンドの分配金額変動等に関するお知らせ」を HP に掲載しました。また、9 月に分配の仕組みに関する解説資料「分配についての 3 つの疑問にお答えします」を HP に掲載しました。</p> <p>基準価額と分配金の関係をご理解頂くため、交付運用報告書において、「分配金込みリターン」※1 と「期首基準価額に対する分配金の割合」※2 の追加、併記を開始しました。</p> <p>※1：分配金と基準価額の変動を含めた、当期の運用利回り ※2：分配金のみ当期の運用利回り</p>

グローバル水準の商品の品揃えのため、海外運用会社の調査と商品開発のラインを一本化しました
実施済
アジア地域ファンドバスポート向け商品開発を行います
実施中
日興グローバルラップ社を買収し、海外運用会社の調査機能を大幅に拡充しました
実施済
日興グローバルラップ社と協働し、先端分野・新分野の商品開発を行っています
2016年8月に、機関投資家さま向けに、日興グローバルラップ社と協働し同社のモデルを活用した商品を開発、設定しました。
E S G運用を組み入れた長期投資向けのプロダクトを開発します
実施中

～お客さまサービス～

<p>D C（確定拠出年金）ファンドシリーズの一般販売を拡充するとともに資産形成初心者の皆様のご理解のため、ビギナーズバックを活用した各種イベント、セミナーに加え、相続や相続後の資産管理を含む終活セミナーやファイナンシャルプランナーによる販売会社の皆さまへの研修を実施しています。</p> <p>お客さまのご理解のため、わかりやすい運用プロセスや長期グラフを掲載した交付目論見書および UCDA 認証※を取得した見やすいデザインによる交付運用報告書の作成を開始しました。</p> <p>※「わかりやすさ」を評価するユニバーサルコミュニケーションデザイン協会による認証</p>

インターネットによる公募投信の直接販売を開始しました
実施済
D C（確定拠出年金）ファンドシリーズの一般販売を拡充します
日本リートおよび外国リートのD Cファンドを2016年9月に設定し、オンライン証券さまで販売しています。
資産形成初心者の皆さまのご理解のため、「ビギナーズバック」※を活用した啓蒙活動を広く展開します
※ コミックス「インバスター Z」のキャラクターを使ったわかりやすい解説書やカードゲームなど当社がこれまで開発した資産形成初心者向けの一連のツール群
ビギナーズバックを活用した各種イベント、セミナーに加え、新たに相続や相続後の資産管理を含む終活セミナーやファイナンシャルプランナーによる販売会社の皆さまへの研修を実施しています。
お客さまの金融リテラシー向上をお手伝いさせて頂くとともに当社商品を一層ご理解いただけるよう資産運用サポート部を設置しました
実施済
商品部にプロダクトスペシャリスト※を新たに配置し、運用商品の説明、お客さま目線によるコンサルティングを行います
※ 運用の豊富な知識・経験を持つ個別商品に詳しい専門集団。営業でも運用でもない商品部に在籍し、中立的立場からお客さまのコンサルティングを実施
実施中
（プロダクトスペシャリストが、年金・機関投資家のお客さまへの詳しい運用報告を実施するとともにお客さまニーズを社内にフィードバックし、個別具体的な運用のご提案を実施しています）

お客さまのご理解のため、信託報酬等の手数料差引後の収益率イメージの明示を順次、進めてまいります
実施中
ユニバーサルデザインによるわかりやすい目論見書、報告書の作成を開始しました
交付目論見書に、運用プロセスのわかりやすい図とともに長期の変動がわかるグラフを順次掲載しています。交付運用報告書では、UCDA 認証を取得し、「見やすいデザイン」認証マークの掲載を開始しました。マンスリーレポートについても、新デザインで 10 月より順次リリースしていきます。
日々のお客さまサービスについてのプロセス検証・管理を強化します
実施中
わかりやすく使いやすいホームページに 2016 年 4 月 1 日に改訂しました
実施済
ホームページ上での運用担当者による運用状況の動画説明を開始しました
実施中
お客さまの声を直接うかがい、継続的なサービス改善に努めます
実施中

～経営インフラ～

<p>お客さまへのよりわかりやすい情報提供のため、ブラックロック社のシステムを使ったわかりやすい運用説明資料の作成を開始しました。また、データ管理体制を整備し、抜本的なデータ管理の見直しを実施中です。</p> <p>コスト削減による信託報酬の引き下げを目的として、投資信託のミドル・バックオフィス業務についてステート・ストリート信託銀行へのアウトソースを合意しました。</p> <p>内部統制では、FD 宣言の各部署の役割を踏まえた業務マニュアルの見直しを実施し、監査法人によるレビューを受けました。</p> <p>ガバナンスでは、株主会社からの役員派遣枠を撤廃し、独立した社外取締役と社外監査役（各 2 名）を招聘。FD 第三者委員会を四半期毎に開催（第 4 回、第 5 回の概要は 6～7 ページのとおりです）。</p>
--

お客さまへのよりわかりやすい情報提供、および運用とリスク管理の高度化に向けたシステム開発を開始しました
ブラックロック社のシステムを使ったわかりやすい運用説明資料の作成を開始しました。また、データ管理体制を整備し、抜本的なデータ管理の見直しを実施中です。
コスト削減による信託報酬の引き下げを目的として、システムの抜本的な見直しに着手しました
2016 年 6 月に投資信託のミドル・バックオフィス業務についてステート・ストリート信託銀行へのアウトソースを合意しました。2017 年末までの実施に向け、詳細検討を開始するとともに両社間の人材交流も開始しました。
高度専門人材の採用を可能とする人材報酬体系を構築しました
実施済
FD 宣言を規程化した「基本規程」を制定し、基本規程に基づく業務の抜本的見直し※に着手しました
※ FD 宣言の方針を当社の最上位規程「基本規程」として 2016 年 2 月に制定し、基本規程を踏まえ「運用責任を全うする」べく、全部署の業務マニュアルを見直し中
基本規程に基づき、FD 宣言の各部署の役割を踏まえた業務マニュアルの見直しを 6 月に実施しました。見直し後の業務マニュアルについては監査法人によるレビューを受けており、下期に更なる充実を図る予定です。

産学連携によるビッグデータなど先端分野の研究を開始しました
実施中
利益相反関係等、フィデューシャリー・デューティー全般をチェックする第三者機関のしくみを導入し、外部委員による提言と対応を開示しています
実施中 (FD 第三者委員会を四半期毎に開催しています。第 4 回、第 5 回の概要は 6~7 ページのとおりです)
社外役員の独立性を確保します
株主会社からの役員派遣枠を撤廃し、独立した社外取締役と社外監査役（各 2 名）を 2016 年 6 月に招聘しました。
お客さま向けに当社オフィスツアーを開催し、運用プロセスの見える化を図ります
実施中
フィデューシャリー・アクションプランの実施状況を半年ごとに公表いたします
実施中 (次回報告は 2017 年 4 月の予定です)

2. FD第三者委員会の提言概要

第4回および第5回のFD第三者委員会の概要について以下のとおり報告します。

(1) 第4回

開催日：2016年7月14日

テーマ：以下について利益相反の観点を中心に議論

- ① 議決権行使について
- ② 新しい経営体制および持株比率の変更について

提言の概要：

① 議決権行使について

当社の議決権行使基準および実績について議論され、以下の提言がなされました。

- 当社の議決権行使基準（SMAM ガイドライン）は、とても厳しい議決権行使基準で、内容もクリア。株主会社に対しても極めて厳格に適用されている。
- 議決権行使の目的は投資リターンの改善にある。その原点に鑑み、最も効率的かつ効果的な対応はいかにあるべきかにつき、皆で議論、模索し続けることが運用者の使命と心得る。
- この観点で例えば、外形基準で判断できる項目についてはアウトソースし、外形基準で判断できない個別性の高い案件についての分析や、業界をリードする議決権行使の次の切り口、基準づくり等への注力を検討してはどうか。また大型株と中小型株のどちらにより多くの時間を割くか？といった点も議論に値する。

② 新しい経営体制および持株比率の変更について

6月からの新体制を踏まえ、第3回委員会で議論された株主会社との利益相反関係を含めたガバナンスについて議論され、以下の提言がなされました。

- SMAM では6月に株主会社からの役員派遣枠が撤廃され、運用会社としてのガバナンスで大きな進歩があった。今後、取締役、監査役の構成を変えたことによる効果を期待する。
- 社長や役員に求められる要件と選任プロセスを整理すること、外部と内部の両方から候補者を立てること等を検討すべき。

(2) 第5回

開催日：2016年10月14日

テーマ：以下のテーマを中心に議論

- ① 中期経営計画（2017～2020）策定について
- ② SMFG（三井住友フィナンシャルグループ）に対する経営指導料について

提言の概要：

① 中期経営計画（2017～2020）策定について

当社の中期経営計画（2017～2020）策定について、以下の提言がなされました。
<ul style="list-style-type: none"> • 2020年に日本一の運用会社を目指すという目標のためには、900兆円の現預金市場の開拓とともに、既存の投信市場（株式公募投信で80兆円規模）への的確な商品提供を行うことが戦略上重要である。
<ul style="list-style-type: none"> • 営業と運用の両輪が大事。アクションプランで運用は強化されつつあるが、今後は営業部隊の最強化戦略も考えるべき。
<ul style="list-style-type: none"> • 商品の組み合わせ等で運用のソリューションを提供できる人財の育成についてアクションプランに入れるべき。
<ul style="list-style-type: none"> • SMAMの外部評価が上がってきているのは素晴らしい。地方銀行へのアプローチを強めてはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> • FDの基本方針とアクションプランの関係がわかりにくい項目があるので明確にすべき。
<ul style="list-style-type: none"> • （特に900兆円の現預金市場の開拓に向け）金融商品の販売に係る顧客の同意手続きが不要になる程にまで、顧客の金融リテラシー向上に尽力するとともに、顧客が安心して投資できる商品を提供することが重要である。
<ul style="list-style-type: none"> • 若い世代では終身雇用は保証されないという感覚になってきている。そうしたことを踏まえ、グローバルに通用する雇用・処遇の仕組みづくりが求められる。

② SMFG（三井住友フィナンシャルグループ）に対する経営指導料について

SMFGに対する経営指導料について、以下の提言がなされました。
<ul style="list-style-type: none"> • 支払内容の経済合理性について検証するなど、SMAMの自主性について対外的に誤解を与えないように注意すべき。グループ管理コスト等実態に合わせて名称について変更すべき。

以上

本件に関するお問い合わせ先

三井住友アセットマネジメント株式会社 企画部

新保 Tel.03-5405-3239

鈴木 Tel.03-5405-0583

三井住友アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、

一般社団法人第二種金融商品取引業協会